

キクの病害虫の発生状況（7月中下旬）

1 白さび病

発生ほ場割合は平年並でした（図1）。上中位葉で発生がみられる場合は防除を実施してください。また、降雨等の多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布を心掛けてください。また、本病は、キクの品種によって発病に差があるので、発病しやすい品種では、防除を徹底してください。

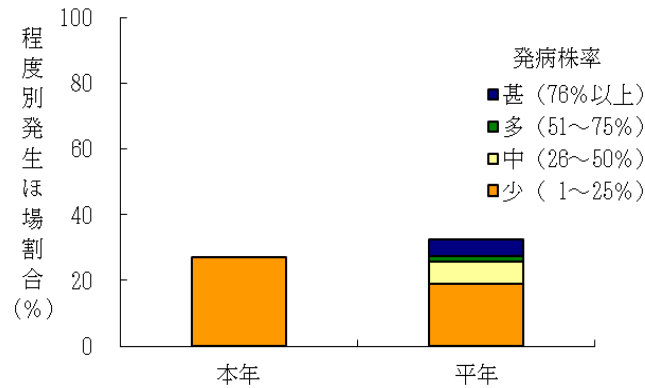


図1 白さび病の発生状況

2 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年よりやや高い状況でした（図2）。気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は防除を実施してください。

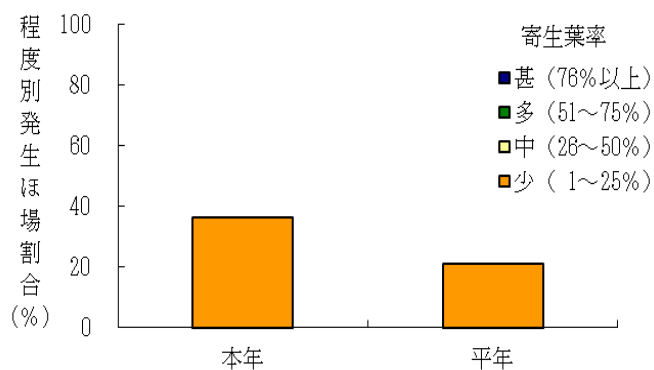


図2 アブラムシ類の発生状況

3 ハモグリバエ類

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。上位葉に発生が見られる場合は、防除を実施してください。

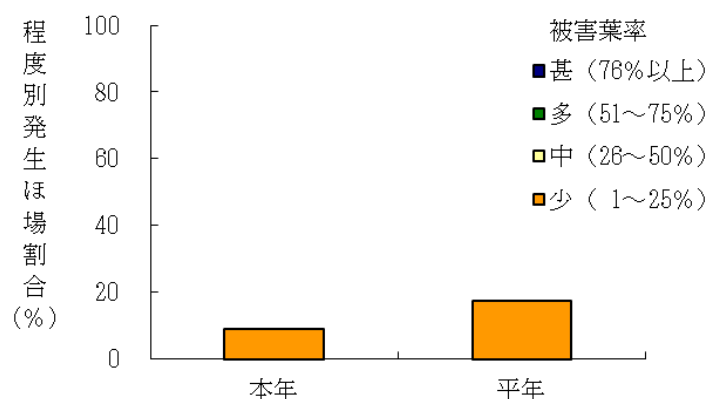


図3 ハモグリバエ類の発生状況

4 アザミウマ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。今後気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は防除を実施してください。発生種がミカンキイロアザミウマの場合は、効果の高い薬剤が少ないので、薬剤の選択に注意してください。また、本種は TSWV 等のウイルスを媒介するので注意が必要です。

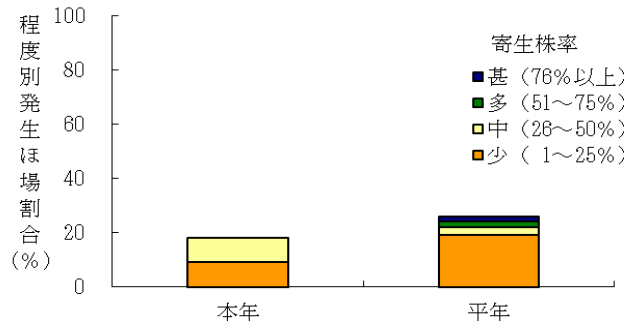


図4 アザミウマ類の発生状況

5 ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。今後気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られた低密度時から防除を実施してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります（表1）。薬剤防除を行った場合には、防除の2～3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

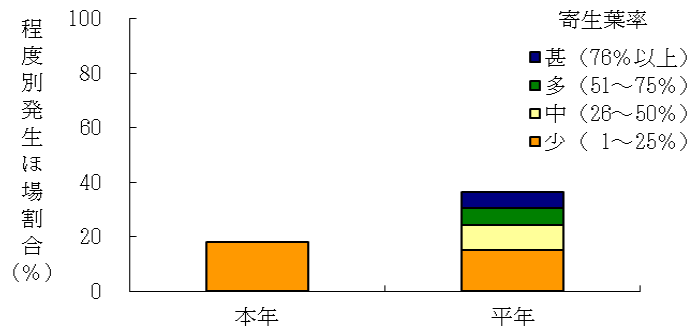


図5 ハダニ類の発生状況

表1 ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果

供試薬剤	イチゴ 2001年 農試	キュウリ 2002年 農試	キュウリ 2003年 農試	キク 2004年 農試	イチゴ 2008年 防除所	イチゴ 2013年 防除所	イチゴ 2015年 防除所	イチゴ 2018年 防除所
アグリメック	—	—	—	—	—	—	—	◎
アーデント水和剤	△	△	△	△	—	△	—	—
アフーム乳剤	—	—	—	—	◎	—	—	—
カネマイトフロアブル	—	◎	◎	◎	◎	◎	○*	◎
コテツフロアブル	△	△	○	△	—	△	—	△
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*	○
スターマイトフロアブル	—	—	—	—	—	—	△*	—
ダニサラバフロアブル	—	—	—	—	—	○	△*	△
ダブルフェースフロアブル	—	—	—	—	—	—	—	△
ニッソラン水和剤	△*	—	△*	—	—	—	—	—
パロックフロアブル	○*	—	○*	—	—	—	△*	—
ピラニカEW	△	△	△	△	—	△	—	—
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*	◎

注1) ◎: 効果高い、○: 効果が劣る場合あり、△: 効果が劣ることが多い、—: 未検定
 (◎: すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○: 死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)
 注2) *は、殺卵効果を検定。

6 オオタバコガ

巡回調査で寄生は確認されませんでした(図6)。フェロモントラップ調査では、中通り北部で誘殺数が多くなっています(図7、8)。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

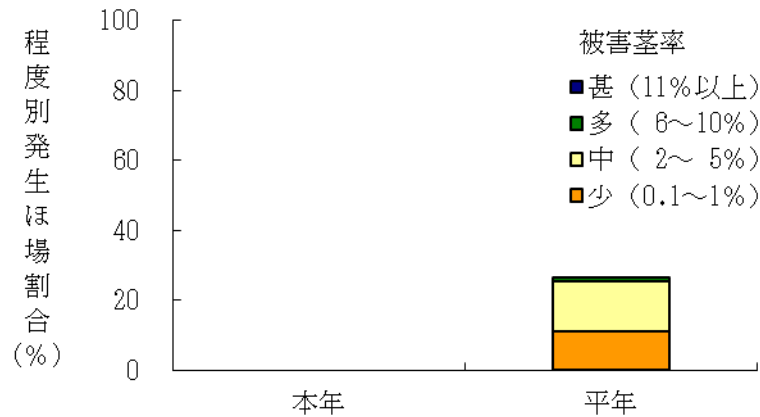


図6 タバコガ類の発生状況

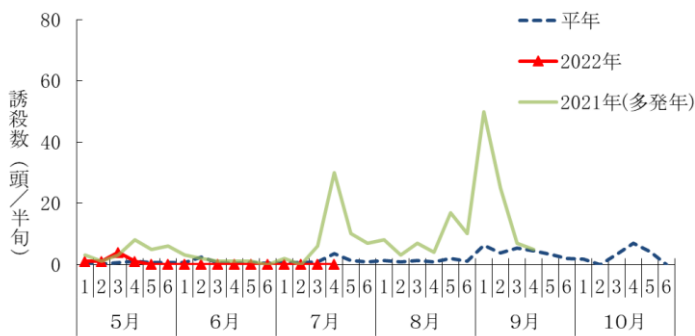


図7 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(新地町:キク)

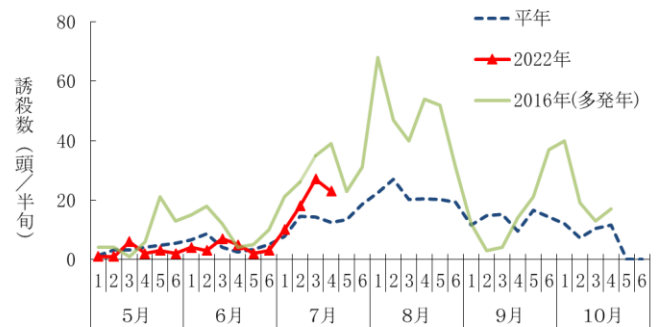


図8 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(伊達市保原町:キク)

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp